

BIG BEN

- p1 増えるオンライン・イベント
- p2 写真探訪：ロックダウン中の冬の公園
- p3 領事便り：日本人帰国者の検疫措置の強化
- p4-5 特集：日本クラブ診療所の歴史
- p6 ワクチン接種を受けた日本人の体験談
- p7 エッセー：見えない糸
- p7 短信：叙勲 2 件
- p8 クラブサロン・同好会案内

いつまで続くコロナ・パンデミック

増えるオンライン・イベント

英国における第 1 回目のロックダウンから約 1 年が経過した。新型コロナウイルスは数々の変異株を生み出しながら、一向に収まる様子がない。そんなパンデミックの中でも英国はコロナワクチンの接種を他の先進国に先がけて実施し、接種は順調に進んでいる。コロナの長いトンネルの出口が、まだ遠いところだが、小さく見えてきたと言う人もいるくらいだ。しかし、実際には人々の活動は今でも相変わらず制限されており、移動や会合の自由も認められていない。日本クラブも理事会や各委員会の会議をオンラインで実施、また、各種イベントや会議室を使つてのセミナーや講座が開けず、オンラインでの実行が増加している。

◆グリーンコーラスがオンラインセミナー

日本クラブ女性合唱団グリーンコーラスが「歌で気分を明るく」というタイトルで 2 月 13 日（土）オンラインセミナーを開催した。これは日本クラブ主催の ZOOM によるミーティングで、約 70 名が参加した。先ず準備体操として首や肩をリラックスさせ、早口言葉で口の筋肉をほぐし、合唱団の歌う「花」「ペチカ」「トロイカ」などのお馴染みの曲に合わせて、自分もマイクオフで歌って見ることから始まった。

指揮者の高塚翠華さんからは「上を向く声」「下を向く声」の話があり、笑顔で歌えば上を向く声になるとのアドバイスがあり、手拍子を打ちながら「証城寺の狸囃子」や「夕焼け小焼け」を合唱した。

オンラインの欠点として電波の関係でどうしても時間のずれが生じるので、全員での合唱は不可能であり、前もって録画した合唱団の声に合わせて、自分もマイクを接続しないで口ずさむという方法がとられた。

第 2 部ではロックダウン中のグリーンコーラスの活動を紹介します。昨年はロンドンでのジャパン祭りへのオンライ

ン参加や全日本合唱連盟の「バーチャルお母さんコーラス大会」に参加したことが披露された。日本の合唱団との交流や大会への参加はオンラインでないと出来ないことであり、その意味では思いがけないパンデミックの効用だった。

続いて第 3 部ではライブチャレンジとして、「ふるさと」を交代で一行ずつ歌うアカペラに挑戦、参加者の中からボランティアを募つての演奏があった。



オンラインセミナー練習風景

(2 面へ続く)

セミナー最後の質疑応答では英国だけではなく、日本からの参加者の挨拶もあり、1時間余りのセミナーはあっという間に終わった。グリーンコーラスは2011年の東日本大震災以来、毎年ロンドンで震災復興を祈るコンサートを開催しているが、今回のセミナー参加者の中には、津波の被害に遭った宮城県在住の女性の参加もあった。全体的な印象としては、よく準備されたセミナーであり、スクリーン上の共有画像も鮮明で、参加者は退屈もせずに楽しんだようだ。

◆最近行われたその他のセミナーや講座

パンデミックが長引くにつれ、普段日本クラブ会議室を使って行われている日本クラブ主催の英語教室もオンライン授業になっており、またフランス語教室は実際に授業が出来るまで中止、ゴルフアカデミーはゴルフ場閉鎖につき、現在レッスンは行うことができない。その他会員主催のセミナーや講座も徐々にオンラインに切り替わりつつある。講師のご厚意により無料で開催さ

れるものは日本クラブが企画・運営し、その他の定期的に行われる会員主催のものは、それぞれの主催者が運営している。以下は最近開催された主なオンライン・イベントである。(順不同)

- EJEF 日本語教師養成講座
- ワイン教室
- ロンドン西洋美術史講座
- チーズ講座
- ガーデン・ツアー講座
- 肩の凝らないオペラ入門講座
- フラワーアレンジメント教室
- 木村正人氏の Brexit セミナー
- ヒメママ・ロンドンセミナー

これらの催し物は日本クラブからのお知らせメールで案内されるので、クラブへのメール登録が必要となる。登録は日本クラブ・ホームページから出来る。

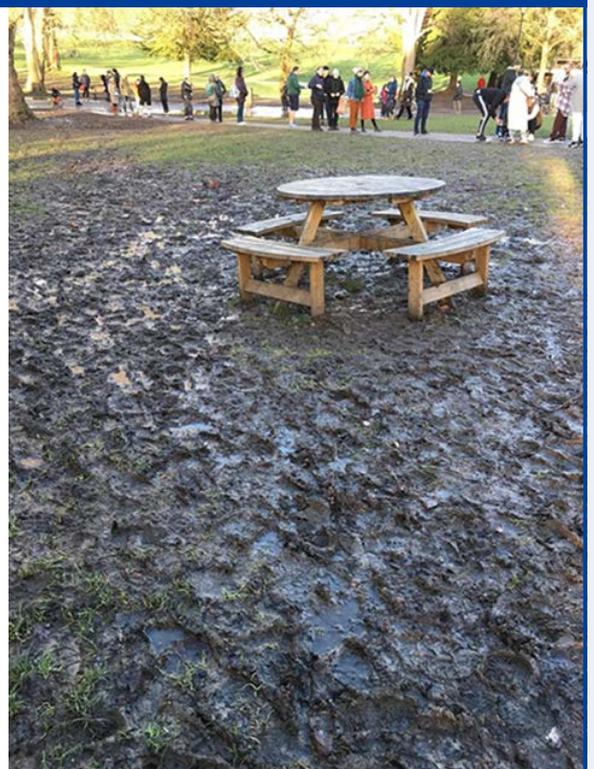
www.nipponclub.co.uk

写真探訪 Around London

新型コロナウイルスの被害がなかなか治まらない。英国ではワクチン接種が軌道に乗っているが、効果が出るのはまだまだ先のことの様だ。手洗い、マスク着用、人と人との距離を取ることが欠かせない。ロンドンは3回のロックダウンに見舞われたが、ロックダウン中でも散歩やジョギング等の運動のため、一日一回公園へ出かけることは許されている。そのためどこの公園も人でいっぱいになる。特に天気の良い日ともなると夫婦や同居家族同士で、どっと公園へ押しかける。冬の公園は雨が多く、芝生の上はグチョグチョで歩けない。どうしても舗装された狭い通路を歩くことになる。その結果、ソーシャル・ディスタンスなどと言ってられないほどに混雑した状況になり、まるで日本の歩行者天国のような様相を呈している。Crystal Palace Park にて。

(文：加藤節雄、写真：Masami Bornoff)

【ロックダウン中の冬の公園】





日本人帰国者の 検疫措置の強化

厚生労働省は、昨年 12 月 27 日より、英国から日本への帰国者に対して、出国前 72 時間以内の COVID-19 に関する検査証明書を求めるなど、水際対策措置を強化しています。英国から日本への帰国までに必要な手続きをまとめてみました。

(執筆の 2 月 10 日現在の情報ですので、今後変更となる可能性もあります。)

1 COVID-19 に関する検査証明

英国出国前 72 時間以内に COVID-19 に関する検査証明書を入手する必要があります。所定のフォーマットは、当館ホームページ (https://www.uk.emb-japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00190.html) から入手できます。具体的な必要事項は次のとおりです。

(1) 人定事項：

氏名、パスポート番号、国籍、生年月日、性別

(2) COVID-19 の検査証明内容

「検査手法」

検 体：鼻咽頭ぬぐい液または唾液

検査方法：核酸増幅検査 (real time RT-PCR 法)

核酸増幅検査 (LAMP 法)

抗原定量検査のいずれか

「検査結果」

「検体採取日時」

「検査結果決定年月日」

「検査証明交付年月日」

(3) 医療機関等の情報

医療機関名または医師名、医療機関住所、医療機関印影または医師の署名の全項目が英語で記載されたものに限る。

なお、英国の検査機関は、インターネット等にてご自身で検索していただくようお願いいたします。

* 検索エンジンで、「COVID-19 TEST FOR TRAVEL」などで検索していただきますと、数多くの検査機関が出てきます。

2 質問票 Web

<https://arqs-qa.followup.mhlw.go.jp/#/>

到着前 (搭乗前、空港、機内) に「質問票 Web」に滞在歴や健康状態を入力し、発行された QR コードを到着時に検疫官に提示する必要があります。スマートフォンやタブレットがなく、搭乗前に「質問票 Web」で QR コードを作成できない場合は、日本の空港に到着後、空港に設置しているパソコンから「質問票 Web」に入力し QR コードを作成することも可能ですが、入力に時間を要することがあります。

3 誓約書

昨年 12 月 27 日より、英国からの日本人の帰国に際して、入国時に位置情報の保存 (接触確認アプリのダウンロード及び位置情報の記録) について誓約を求められます。

4 PCR 検査

英国からの帰国者は、検査証明書提出の有無にかかわらず、帰国時の本邦到着空港において PCR 検査を受け、検疫所が指定する宿泊施設での待機が求められます。帰国時に陰性証明書を提出された方は、到着日を除く入国後 3 日目において改めて検査を行い、陰性と判定された場合はその宿泊施設を退所し、公共交通機関を使わない形で自宅等に戻ることができ、入国後 14 日間の自宅等での待機が求められることとなります。また、帰国時に陰性証明書を提出できなかった方は、同 3 日目及び同 6 日目にそれぞれ検査を行い、陰性と判定された場合にその宿泊施設を退所し、同じく公共交通機関を使わない形で自宅等に戻ることができ、入国後 14 日間の自宅等での待機が求められることとなります。



日本クラブ診療所 1965年に創設

日本クラブ診療所が3月末で閉鎖されることになった。すでに診療は2月末を以て終了している。1965年以來在英日本人に馴染まれてきた日本クラブ診療所だが、その長い歴史に幕を降ろすことになった。

<創設>

第2次大戦後、ロンドンに日本クラブが再開されたのは大戦後15年を経た1960年だった。在英日本人の数が徐々にではあるが増えてきていた。邦人のための医療機関や教育機関が必要とされてきており、それに応える形で1965年に日本クラブが診療所とロンドン補習授業校の前身である「日本語会」を創設した。

戦後日英政府とも自国の医師免許を持っている人しか国内での診療を許しておらず、それがネックで日本人医

師が英国で診療することが出来なかった。また逆に日本に住む外国人は日本の医師にかからなければならず、言葉の問題や診療方法の違いで困っていた。1964年になり日英政府が両国の医師をそれぞれに認め合うことに合意、日本クラブでは診療所開設の準備を始めた。



日本クラブ会館のあった
チェルシーの建物

<ゴルダース・グリーン診療所>

当時日本赤十字社から浅井栄二医師がロイヤル・ブロンプトン病院で研修を受けていたが、日本クラブは浅井医師と相談、日本クラブ診療所の医師として研修後も英国に留まり、会員の診療に当たることで了解を得た。

クラブでは日本人が多く住んでいるロンドン市内北部のゴルダース・グリーンに物件を探し、ロイヤル・ノーザン病院を親病院として1965年に診療所を開設した。

初代の浅井医師は5年間勤め、2代目の石井策史医師が日本赤十字病院から派遣された。しかし、75年になり日本赤十字病院は医学部闘争のあおりと、病院の拡充のため、ロンドンへ医師の派遣が難しくなり、代わりに東京慈恵会医科大学から医師を派遣してもらうことになり、熊谷公明医師（一般・小児科診療）が派遣された。

(5面へ続く)



ゴルダース・グリーン診療所のあった一般住宅

初期の頃の診療所

ゴルダース・グリーン診療所開設初期の様子を知る熊谷公明医師（上述）は、「診療所には看護師や受付係がないので、電話が鳴るたびに診察が中断されたこともしばしばあった。殺風景な診察室には診察機の他には婦人科用健診台や健診道具が置かれ、舌圧子、ピンセット等を消毒するシンメルブッシュ、衛生材料を自分で作るための滅菌消毒器などがあるだけで、これが花の都ロンドンの診療所かと思った」と言う。土曜・日曜に往診をしたので、ロンドンにいてもゴルフを覚える暇もなかったそうだ。

診療所と住居が一緒のため電話一台では業務処理が難しく、患者が増えるに従い、不便さが目立ってきたので、1975年には、電話が2台設置され、請求業務はクラブ事務局が行い、受付係が採用され、電話の応対やカルテの整理、診療予約受付等を担当することになり、1975年にはどうやら診療所体制が整った。開設から10年かかった。

更に診療所をクラブ会員によく理解してもらえるように「クリニックからのお知らせ」を発行、診療所の紹介、料金、その時々医療情報を掲載した。

日本クラブ診療所 長い歴史に幕

1975年11月になり、ゴルダース・グリーン診療所の改装工事にともない、76年3月まで診療所は一時チェルシーにあった日本クラブ会館の2階へ引っ越し仮診療所としたが、改装工事終了の際に慈恵医大から2人目の長村日出夫医師が着任した。

<南北2診療所体制>

この頃になると日本人の数も大分増え、ロンドン南部に住む人も多くなった。日本クラブは南診療所を開設することを決定、熊谷医師に準備を依頼し、1976年にサットンにオープンした南診療所での診療が始まった。熊谷医師が小児科医だったこともあり、お子さんのいる人は北から来る人も多かった。こうして日本クラブは南北2つの診療所を所有することになった。

その後、北診療所は1991年にセント・ジョンズ・ウッドにあるHospital of St John and St Elizabethへ、南診療所は1997年にウィンブルドンにあるParkside Hospitalへと移転した。どちらも近代的な医療施設を備えたプライベート病院であり、検査設備や薬局も充実しており、日本と同じ高度な診療が日本語で受けられる体制となった。

<南診療所の閉鎖>

2010年を過ぎた頃から在英日本人の減少傾向がみられ、それにつれて日本クラブの会員数も減り、診療所を利用する患者さんも減少し始めた。診療所開設当時は日本の医療機関は日本クラブしかなかったが、1980年代からは民間の日系医療機関もロンドンで診療を始め、日

本ラブ診療所しかなかった頃とは違う環境となった。

診療所の入っている病院の家賃も高騰を続け、日本クラブ診療所運営に黄信号が灯っ



南診療所が入居していた病院

た。2016年になりクラブ理事会は南診療所を閉鎖して、北診療所のサービスを充実することを決定、同年3月に40年続いた南診療所が閉鎖された。

<日本クラブ診療所の閉鎖>

南診療所の閉鎖から5年間、北診療所では診療時間の延長、週末診療などのサービスを向上したが、患者数の減少には歯止めがかからず、その上2020年には新型コロナウイルスのパンデミックにより診療も思うようにならず、患者数が大幅に減り、財政的にも診療所を続けることが大変難しい状況になったため、これ以上運営を続けることは無理ということになり、2020年12月総会で2021年3月末を以て診療所を閉鎖することが決定された。

1965年開設以来半世紀以上にわたり在英日本人の健康管理に尽くしてきた日本クラブ診療所だが、初期の頃の使命感も時代とともに変わり、日本人社会の変化もあり、長い歴史に幕を降ろすことになった。(文・加藤節雄)

※診療所閉鎖に伴う各種の質問に関しては日本クラブ事務局へお問い合わせください。(TEL:020-7921-9490)



北診療所が入居していた病院

日本クラブ診療所の主な歴史

- 1965年 ゴルダース・グリーン診療所オープン
- 1975年 チェルシーの日本クラブ会館へ仮移設
- 1976年 ゴルダース・グリーン改修工事完成
- 1976年 サットンに南診療所開設
- 1991年 北診療所がセント・ジョンズ・ウッドのHospital of St John and St Elizabethへ移動(医師3人体制へ)
- 1997年 南診療所がウィンブルドンのParkside Hospitalへ移動
- 2016年 南診療所閉鎖
- 2021年 日本クラブ診療所閉鎖



英国で進むコロナワクチン接種

接種を受けた日本人の体験談

昨年12月から英国で接種が始まったコロナワクチン。1月下旬には供給をめぐって英・EUの外交関係にも発展しかけたが、これまでのところ順調に接種が進む。すでに英国で接種を受けた日本人5名の方に話を聞いた。

(編集部)

英国では原則として年齢が高い順に接種を始めたこともあり、取材時点では5名の方はいずれも70歳以上だったが、2月に入り接種年齢層が下がっても接種の現場は変わっていない。居住エリアはロンドンが3人、ケントとデボンが1人ずつだった。

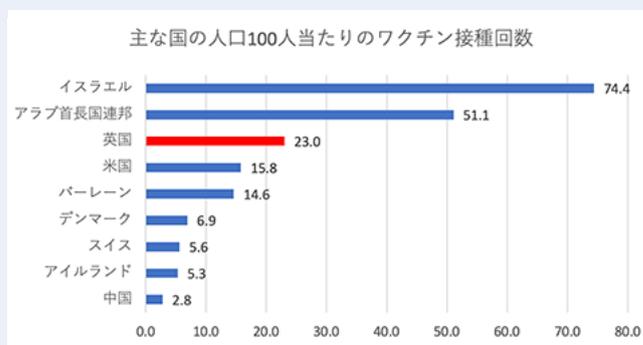
基本的には前日までに電話かスマホへのメッセージで、場所と時刻の連絡がくる仕組み。ただケント在住の女性は「午後2時半に電話があつて、その日の夕方6時過ぎに来られますかと聞かれた」とのこと。このほか、オンラインでアポイントを取るよう指示を受けたものの実際にはアポが取れない状態が数日続いたというロンドン在住の女性のようなケースもあった。

接種場所はGP、教会やコミュニティ・ハウスなどの特設会場が多い。会場では体温検査（省略される場合もある）、本人確認とアレルギーの有無を聞かれた後に接種を受け、接種カードをもらって終了 — という段取りになっている。会場内を移動しながら流れ作業のように手続きをする場合が多く、「すべてがアツという間に終わった」（ロンドン在住・男性）という声がほとんど。接種後15分程度、

体調に変化がないか様子を見る場合もあるようだ。

今回の5名のうちアストラゼネカ製のワクチンを受けた方が3名、ファイザー製が2名。英政府によればワクチンのメーカーを選ぶことはできない。気になる副反応（注射部位の腫れや発熱など）については全員が「ない」と答えた。2度目の接種日については1名の方を除き、「追って連絡する」ということだった。

接種を受けたとしても、当面はマスクせず自由に行動できるわけではない。春が近づくにつれて感染が下がるとの期待は強まるが、「英国型」に続き「南ア型」「ブラジル型」など変異株が相次いで登場し、気の抜けない日々が続く。読者の皆様もどうぞご自愛を。



2月15日時点の Our World in Data による

本稿執筆時点（2月15日）では、世界の人口2000万人以上の国の中では英国のワクチン接種率が最も高い。総接種回数では米国（5288万）、中国（4052万）、英国（1560万）と続いている。

ワクチン接種を受けるには

●ワクチン接種はNHSのみ

日本クラブ事務局や診療所にも問い合わせがあるが、現在のところ英国における新型コロナウイルスのワクチン接種は、英国政府が運営するNHS（National Health Service）の機関でしか行われていない（無料）。日本クラブ診療所をはじめとするプライベートの病院やクリニックにはワクチンは供給されていない。

●GP登録が基本

NHSのサービスを利用するには各地にあるGP（General Practitioner = ホームドクター、地域のクリニック）へ登録（無料）する必要がある。近所のGPは下記のWebsiteから探すことができ、New Patient Registrationをクリックして、申込書をダウンロードし、実際にGPに出かけて登録するか、あるいはオンライン登録をすることもできる。

<https://www.nhs.uk/service-search/find-a-GP>

登録が済むと接種グループの順番に従いワクチン接種の案内（電話やテキスト）が届く。



見えない糸

「よりによって、今」というのが、最初に口をついて出た言葉でした。昨年12月22日、突然お風呂のお湯だけがまったく出なくなってしまったのです。ボイラーは正常に働いており、洗面台もキッチンのお湯も出ます。お風呂の水もちゃんと出るのに、なぜかお湯だけが出ないのです。クリスマス前のこの時期に来てくれるプラマーはいるのか、来てくれても普段以上に高額請求なのではないか・・・などの考えがぐるぐると頭を巡りました。とにかく、一か八かで、以前に呼んだことのあるプラマーに電話しましたが、一人は出ず、もう一人には「忙しい」と体よく断られてしまいました。「あ～あ！」撃沈です。

でもこのままでクリスマスを迎えるわけにもいかず、クリスマス後に再トライすることにして、それまで時間稼ぎの次善の策を考えることにしました。幸い、洗面台のお湯はでるので、「あ、あれだ！」と思いだしたのが、聴診器のような形をしたミキサーです。その昔、イギリスにたての頃、お風呂にシャワーがついていなく、皆どうやって髪を洗っているのか不思議でした。私も最初は洗面器を使っていたのですが、ある時友人に聞くと、お湯と水の蛇口に差し込んでシャワーを作る優れものがあるということで、早速ブーツで購入したものでした。今回は、通販ですぐ探し出し、ホー

スの長さもチェックして注文。翌日には手元に届いて、最悪は脱した気分でした。

ボクシング・デーに友人が散歩に誘いに来てくれ、その時に相談すると、彼女がいつも頼んでいるプラマーを紹介してくれました。念のため、新しいタップも通販で用意し、恐る恐るそのプラマーに電話すると、「いつ行けばいい？ あ、じゃ、これから行くから」と二つ返事で来てくれました。そして1時間半ぐらい仕事をして、無事にお湯が出るようになり、一件落着きました。

やっと問題が解決したので、心にも余裕が出て、おしゃべりする気にもなりました。そこで、そのプラマーは家に来るなり、きちんと靴を脱いだことを不思議に思っていると、息子さんが日本女性と結婚して日本に住んでいるとか。あ～、今回も見えない糸で結ばれたセーフティー・ネットに助けられたと思わずにいられませんでした。

時々、こういうことが思いがけず起こるのです。ある時は、ミニキャブの運転手に「日本人？」と聞かれ、怪しいなと思いつつ返事をすると、相好を崩して、「私は〇〇の国の出身だが、あなたの国のおかげで、私の国には橋がかけられ、病院ができた」とすごく感謝されて、親切にしてもらったりしました。自分が直接その人に何をしたわけではないのですが、このような見えない糸が張り巡らされて、守られていることを感じます。今度は自分が見えない糸を紡ぎたい、と新年を迎え、思いを新たにしました。



加藤節雄氏に MBE 勲章

日本クラブ理事で本誌編集長を務める加藤節雄氏が英女王より名誉大英勲章 (MBE) を授与された。加藤氏は1970年にフォト・ジャーナリストとして渡英以来、英国関連情報を日本のメディアに送っている。また、英国人のライフスタイルを紹介する本も多数ある。過去50年間にわたりフォト・ジャーナリズムを通して英国の紹介に尽力し、日英交流と相互理解に貢献したことが認められたもの。(写真②)



花岡高明氏が叙勲

在英日本商工会議所事務総長を務める花岡高明氏が旭日双光章を受章した。花岡氏は2009年に同会議所事務総長に就任、英国における日本のビジネスの代表として尽力、また、

ジャパン祭り、桜プロジェクトを通して日英文化交流に尽くし、英国日本人会理事として在英日本人のために貢献している。コロナ禍で遅れた叙勲の伝達式は昨年12月8日(火)に日本大使公邸で行われた。(写真①: 日本大使館提供)

日本クラブ理事の交代

◆ スタッフ委員会 (副) : 安野真輝氏より内山貴由氏へ (ともに双日)

会員登録

日本クラブは在英日本人のためのクラブです。日本人であれば誰でも会員になれます。会員カテゴリーには法人会員正会員と個人会員があり、個人会員には駐在員、一般、永住者、学生があります。学生以外の入会単位は家族となります。詳しくは日本クラブホームページを参照。

www.nipponclub.co.uk

日本クラブ・ゴルフ同好会

◆ 月例会 : 開催中
◆ 会 場 : Maidenhead Golf Club
◆ 問い合わせ : ☎ 07956-551363 (外山健二)
kenjitoyama787@gmail.com
随時入会受付中 (申し込みは HP から)

日本クラブ・ブリッジ会

◆ 例 会 : 毎週木曜日 (11:30am 開始)
◆ 会 場 : ヤングチェルシー・ブリッジクラブ
<http://ycbc.co.uk>
◆ 問い合わせ : yasy9395@aol.com (宮崎)
見学者歓迎

日本クラブ・グリーンコーラス

◆ 練習日 : 毎週月曜日 (10:15 ~ 12:30)
◆ 会 場 : Trinity Church, Golders Green
◆ 問い合わせ : londongreenchorus@gmail.com

日本クラブ囲碁会

◆ 例 会 : 毎週土曜日 (14:00 ~ 20:00)
◆ 会 場 : Inn of Court Pub
地下鉄 Chancery Lane Exit 3 より直進 2 分
◆ 問い合わせ : ☎ 07956-594040 (田中)
tanaka@gokichi.org.uk

クラブサロンのご利用について

日本クラブのクラブサロンはロンドン中心部セント・ポール大聖堂のテムズ川対岸のサザックにあります。ラウンジや会議室、ソフトドリンク、JSTV 等のサービス施設があります。テムズ川南岸のこの地区は再開発が進むエリアで、テートモダン・ギャラリーを始め、数々の店やレストランが並んでいます。地下鉄ジュビリー線のサザック駅から徒歩 5 分、ロンドン・ブリッジ駅からは 10 分の便利な場所にあります。



地図はホームページ (www.nipponclub.co.uk) の「日本クラブご案内図はこちら」を参照してください。

* 新型コロナウイルスに関するユーロポイント・センターの方針により、クラブサロンは閉鎖しております。

● Nippon Club
Ground floor, Europoint Centre
5-11 Lavington Street, Southwark, London SE1 0NZ
TEL: 020-7921-9490

ロンドン日本人学校

ロンドンにある特色を生かしつつ、学習指導要領に準じた教育を実践しています

- 運動会・文化祭などの行事
- 整った学習環境
- きめ細かな進路指導・進路講演会
- 英会話や英語活動
- 英語検定や漢字検定の実施
- 現地校との交流
- 放課後の楽しい部活動(5年生以上)
- 通学バス利用可



入学・転入学随時受付 TEL: 020-8993-7145

ロンドン補習授業校

英国の現地校等に通学している子ども達が、国語(日本語)の勉強をする「サタデースクール」です

- 毎週土曜日午前中授業
- 授業回数年間約40回
- 校舎はアクトン、プレント、クロイドンの3校舎
- 小・中学部・高等部 (学習指導要領に準じたカリキュラム)
- 日本語科 (日本語を第2母国語とし、日本語の習得を望む児童生徒を対象に7クラス設置)

2021年広報委員会委員

委員長 : 加藤 秀央 (日本経済新聞)
委員 : 須永 逸人 (日本大使館)
津田 進 (日本大使館)
東 哲夫 (三井物産)
菊地 保宏 (日本航空)
加藤 節雄 (Kato Media)
「びつぐべん」編集長
笹川真理子 (英国文化センター)
岡嶋 理子 (英国日本婦人会)

広報委員会の主なる任務は隔月に発行される会報「びつぐべん」の編集・発行と、クラブのホームページの運営、その他一般的なクラブの広報・宣伝活動です。委員長は日本のメディア各社の代表が毎年交代で務め、その他の委員は毎年交代する人と継続して務める人がいます。

2021年3月帰任の先生

ロンドン日本人学校	安部 貴智 教諭 (福岡県)
長谷川健吾 教諭 (北海道)	花田 理絵 教諭 (福岡県)
宮本千香代 教諭 (兵庫県)	
玉井 義孝 教諭 (広島県)	ロンドン補習授業校
岩田 悠作 教諭 (熊本県)	澤邊 正人 校長 (大阪府)
大石 雅子 教諭 (静岡県)	高橋 敬夫 教頭 (宮城県)